

マレーシアでの英語教育 —クアラルンプールでの短期海外留学を通して—

English Education in Malaysia — Through Short-Term Overseas Study at KDU in Kuala Lumpur —

(2020年3月31日受理)

松浦加寿子 佐々木公之 竹野純一郎
Kazuko Matsuura Kimiyuki Sasaki Junichiro Takeno

Key words : 英語教育, マレーシア, 短期海外留学, 英語の4技能, 異文化理解

1. はじめに

中国学園大学国際教養学部（以下「本学部」という。）は、2019年度1年生を対象にマレーシアにて「短期海外留学」を実施した。ただし、今回の研修は2015–2018年度に過去4年間実施したフィリピンではなく、マレーシアの首都クアラルンプール近郊のセランゴール州シャアラム（Shah Alam）にあるKDU大学での実施であった。本学部の人材育成における留学プログラムの位置づけについては、竹野ほか（2016）に記しているのでここでの重複は避ける。本稿では、2019年度に「マレーシアでの短期海外留学」で実施した留学プログラムについて、前4回の実績と比較・考察をしながら報告する。

2. 短期海外留学プログラムとマレーシアへの変更

2015年から過去4回「オリエンテーション海外研修」の名称で、フィリピンでの約2週間の海外留学を実施してきた。研修の目的である英語学習の動機づけ、英語でのコミュニケーションスキル向上や異文化理解など過去4回と変更はないが、今回より、「オリエンテーション海外研修」から「短期海外留学」と名称の変更を行った。プログラムの名称を変更した理由として、過去4回全て入学後1か月頃（5月）に実施していたが、本年度の実施は夏季休業後半（9月8日–18日）であり、オリエンテーションの意味合いが無くなったことが挙げられる。

マレーシアに変更した理由は大きく3つある。1つ目は、過去4年間すべて語学学校での研修であったが、今回、初めて大学内の英語教育プログラムを採用した点である。留学先であるKDU大学は、マレーシア人は勿論、スリランカ、ケニア、韓国など世界20ヶ国以上135,000人の学生が学ぶ国際色豊かな大学であり、異国の留学生との交流機会と将来的に長期海外留学を希望する学生への動機づけになると考えた。2つ目に、マレーシアの経済状況と異文化に優れている点である。マレーシアは毎年4%以上の経済成長をしており地下鉄などのインフラ設備やショッピングセンターの開発などグローバル化が体感できると考えた。また、仏教、イスラム教、ヒンズー教などの多宗教が混合し、マレー系、中華系、インド系などの多民族や衣食住で伝統文化が保たれているなど学びが多いことも留学先の選定時に魅力的な点であった。3つ目の理由として、比較的安全性が高い国である点が挙げられる。学生の安全性を第一にカントリーリスクも考慮した。

今回のプログラムの参加者は、本学部1年生23名であり、同行者は、教員2名（佐々木・松浦）であった。約8割の学生が、海外渡航が初めてという学生だったため、事前研修は必要不可欠であった。

まず、4月2日に催された入学式後の学部入学式の際に、新入生および保護者に対して簡単なプログラムの説明を行い、それ以外に5回の事前研修を行った。

第1・2回は引率教員2名で海外留学体験談などを交えて説明を行った。第3・4・5回は、留学业務委託先

である(株)リョービツアーズに協力いただき海外での留意点, KDU大学の説明, 海外旅行保険の説明を行った。また, 4回目は, 公益社団法人おかやま観光コンベンション協会の協力により, マレーシアでの生活経験のある担当者をゲストとして参加いただき経済, 文化, 観光など多角的な視点からの情報提供をいただいた(表1参照)。

3. 短期留学先としてのマレーシアとフィリピンの比較と英語使用の実情

竹野ほか(2016), 竹野・藤代・伊藤(福田)(2017)

ではそれぞれ一章を割き, 「なぜフィリピン・セブなのか」, 「英語留学先としてのフィリピン」について, フィリピン, 中でもセブ島で英語留学をするメリットやフィリピン人の国民性について論じた。竹野・佐生・大橋・松浦(2018)では「渡航先としてのフィリピン」という観点から, フィリピンと日本との関わりについてそれぞれの国を渡航先として見た場合について検証した。竹野ほか(2019)では「短期留学先としてのマニラとセブの比較と英語使用の実情」に関して, 短期留学先としてのマニラとセブを比較し, フィリピンの英語使用の実情を記した。本章では, 短期留学先としてのマレーシアとフィ

表1 短期留学プログラム事前研修スケジュール

月日	時間	研修内容	配布物
第1回目 4月16日(火)	9:20-10:50	短期留学の概要について 過去の「オリエンテーション海外研修」について 短期留学プログラムの目的・意義について	
第2回目 5月21日(火)	11:00-12:30	引率教員の海外体験談 マレーシアについて 授業評価方法	マレーシアについて
第3回目 5月28日(火)	11:00-12:30	リョービツアーズ旅行担当者からの説明 マレーシアとKDU大学について 学外アクティビティについて【9月14日(木)市内観光など】 オプションツアーについて【マラッカ, サンチェゴ砦など】 参加同意書と海外旅行保険の説明	旅のしおり(スケジュール表) リョービツアーズの案内 参加同意書 海外旅行保険申込書
第4回目 7月30日(火)	14:50-16:20	マレーシア事前研修のまとめ 海外旅行保険の案内 公益社団法人おかやま観光コンベンション協会 観光事業部 インバウンド担当者によるマレーシア居住体験談	保険証書 航空便の案内 (E-チケット) 海外旅行保険申込書
第5回目 9月2日(月)	12:00-13:00	直前オリエンテーション(最終確認) ・機内持ち込み荷物に入れるもの ・モバイルWi-Fiについて ・集合場所について 第4回目終了後に個別質問への回答を約束しており, 質問に対して回答を行った。 【質問例】 ・寮には洗濯機があるか ・大型ショッピングセンターを見学する時間がとれないかなど	短期海外留学学生からのQ&A 海外旅行保険申込書

リピンの都市を比較し、英語使用の実情を検証したい。

留学先として各都市を比較する際には、治安と生活費は気になるところである。Numbeo-Quality of Lifeを用いてQuality of Life Index「生活の質指数」を調べることで、Safety Index「安全性指数」、Cost of Living Index「生活費指数」が示されるのでそれらの数値および程度を参考にした。表2は、クアラルンプール、マニラ、セブに東京を加えた各都市の安全性指数と生活費指数、そして生活の質指数およびその程度をまとめたものである。程度はVery High, High, Moderate, Low, Very Lowの5段階に分けられている。

安全性指数は数値が高いほど安全性の程度は高いが、クアラルンプール(34.44)とマニラ(35.57)は安全度が低く、セブ(48.64)は中程度であり、東京(77.13)は高いという結果であった。クアラルンプールはマニラに比べて安全という印象であったが、この結果だけを見るとほとんど差はないということになる。参考までに、The Economist Intelligence Unit(2019)によるSafe Cities Index 2019「世界の都市安全性指数2019」によれば、60の対象都市のうち総合スコアでマニラ43位、クアラルンプール35位、東京1位であった。用いるデータで結果は異なるということを確認しておきたい。

生活費指数であるが、ニューヨークの生活費指標を100とした際に、クアラルンプール(40.12)、マニラ(38.77)、セブ(37.32)、東京(84.35)という数値であった。クアラルンプール、マニラ、セブの生活費はいずれもかなり低いということになり、東京の生活費が中程度ということになる。東京の生活費が中程度であるという結果に違和感を覚えるので、Mercerによる2019 Cost of Living Rankingを参照してみると、209都市中でクアラ

ルンプール141位、マニラ109位、東京2位でありニューヨークは9位であった。ここでも用いるデータによって結果は異なっていた。

生活の質指数については、クアラルンプール(107.12)、マニラ(53.81)、セブ(75.27)、東京(162.76)というデータ結果であった。生活の質指数は安全性指数と生活費指数以外にも以下の項目で産出されているので、クアラルンプール(K)、マニラ(M)、セブ(C)、東京(T)の数値とともに紹介する。下線が引いている数値がそれぞれの項目内では望ましい結果である。

Purchasing Power Index「購買力指数」(K: 65.79, M: 23.83, C: 24.51, T: 85.15), Health Care Index「医療指数」(K: 65.56, M: 63.00, C: 63.67, T: 80.74), Climate Index「気候指数」(K:56.55, M:61.23, C: 60.40, T: 85.26), Property Price to Income Ratio「住宅価格対収入比」(K: 11.24, M:27.66, C: 23.81, T: 14.74), Traffic Commute Time Index「通勤時間指数」(K: 42.23, M: 56.02, C: 39.07, T: 40.80), Pollution Index「汚染指数」(K: 68.19, M: 90.01, C: 86.03, T: 42.54)

これらの項目を確認すると、クアラルンプールとマニラでは、購買力指数や住宅価格対収入比、汚染指数などで差があるため生活の質指数に差が生じていることがわかる。

クアラルンプールとマニラ、セブの生活費や治安の比較に関してNumbeoのデータを中心に検証した。Numbeoの指数はcontributors「回答者」の回答を基にしているが、それぞれの都市のデータに反映するデータ数は同程度であるとはいえないため、必ずしも実情を正確に反映しているとは限らないことを付言しておく。

表2 短期留学先としてのマレーシアとフィリピンの比較

	クアラルンプール	マニラ	セブ	東京
安全性指数	34.44	35.57	48.64	77.13
程度	Low	Low	Moderate	High
生活費指数	40.12	38.77	37.32	84.35
程度	Very Low	Very Low	Very Low	Moderate
生活の質指数	107.12	53.81	75.27	162.76
程度	Moderate	Low	Moderate	Very High

注: Numbeoのデータを基に筆者ら作成

マレーシアとフィリピンの英語能力について、Education First (2019)の「EF EPI英語能力指数 2019」が扱う世界100か国・地域の英語力ランキングによれば、アジアではシンガポール(5位)、フィリピン(20位)、マレーシア(26位)が上位に並ぶ。これらの国の英語力の高さについては、歴史的な経緯もあり広く認知されている。参考までに日本は53位であるが、寺澤(2018)は、EFEPIのデータに関して、無作為抽出でもなくマクロ統計でもないなどの理由から、TOEFLやTOEICのスコアと同様に国別ランキングを論じる信頼性が乏しいと批判している。ランキング順位については、参考にしながら鵜呑みにしないという姿勢が求められる。Terasawa(2012)は、2000年の調査データを基に、アジアやヨーロッパの国々を対象とした、自己報告による英語力の比較検討をしている。アジアでは、高度な英語力を有する割合は、シンガポール50%程度、マレーシア20%弱、フィリピン15%弱の順で高く、高度な英語力に基礎的な英語力を加えた割合では、シンガポールとフィリピンはそれぞれ75%程度とほとんど差がなく、マレーシアは55%程度というデータ結果であった。英語話者人口の割合は、マレーシアよりもフィリピンのほうが高いことが分かる。

本学部の学生のプログラムに限定して述べると、マレーシアとフィリピンで受けた英語教育の違いは、マレーシアでは大学の施設で授業を受け、フィリピンでは語学学校を用いたことが挙げられる。また、マレーシアでは英語母語話者の授業を受ける機会があったが、フィリピンの語学学校の授業はすべてフィリピン人が行っていたことである。マレーシアとフィリピンでは英語力が高い国民が一定数いることも事実であるが、マレーシアではフィリピンほど安い人件費と英語力を背景にした自国民による英語教育ビジネスを確立しているとはいえない状況であることがわかった。

本章では、短期留学先としてのマレーシアとフィリピンの比較と英語使用の実情を取り扱ったが、マレーシアとフィリピンのどちらがよいという結論を導くことはない。それぞれ異なる魅力があり、留学先である語学学校や大学およびその立地条件などによっても印象は変わるので一概にどちらがよいとはいえないからである。

4. 短期留学期間中の様子

今回の短期留学プログラムは、上述したように過去4回と異なり、2019年9月6日から9月16日までの全日程11日間での実施であった(付録1)。日程は、前期の成績返還日から後期の履修登録日までの夏期休業期間を利用した。前年と同様に週末の学外アクティビティを充実させ、クアラルンプールの市内研修を実施した。

KDU大学での平日の授業スケジュールは以下のとおりである。(表3)

表3 KDU大学での1日の流れ

時間	内容	授業内容
07:00	起床	
08:00	朝食	
09:30-13:00	授業(210分) 30分間休憩あり	“General English Class” 先生1:生徒7~10の授業
13:00-14:00	昼食	
14:00-15:00	授業(60分)	“General Academic Skill Development Class” グループワーク
15:15-16:15	授業(60分)	“Extra English Class” 補講
18:00	ミーティング後、 夕食	
19:00	自由時間	

KDU大学にチェックインした翌日に、学生はプレイスメントテストとオリエンテーションを受けた。プレイスメントテストでは筆記試験とインタビューが行われ、その結果にしたがってElementary, Pre-Intermediate, Intermediateの3つのレベルに分けられた。【写真1】また、オリエンテーションを通して、学生はマレーシアの歴史やハラルなどの食文化を学ぶ機会に恵まれた。KDU大学では、“General English Class”, “General Academic Skill Development Class”, “Extra English

写真1：プレイズメントテストでのインタビュー



Class”の3種類の授業形式があった。“General English Class”は、主に文法やリスニング、リーディングなどを中心とした授業であり、“General Academic Skill Development Class”では、各教員がクイズやプレゼンテーションなどアクティブラーニングの手法を取り入れて授業を楽しめるように工夫していた。また、“Extra English Class”は補講で任意ではあったが、体調不良ではない限り受講するように指導した。学生は一日約5時間英語漬けの日々を送り、クラスによっては課題も多く出されて、夜遅くまで課題をこなしていた。3日目の授業では文法テストやインタビューテストもあり、学生は真剣な面持ちで試験に臨んでいた。さらに9月16日はマレーシア・デーで祝日であったが、KDU大学の厚意により特別に授業を開講していただき、この日のみ1年生全員一クラスでワークショップが行われた。ワークショップでは通常授業とは少し異なり、一枚の写真からストーリーを膨らませる活動をグループごとにさせて最後にどのグループのストーリーが一番面白いかが教員が決定していた。【写真2】

次に、KDU大学と寮について述べる。学生は短期海外

留学中、KDU大学内にあるカフェテリアの食事を朝・昼・晩利用でき、各自好きなものを選んで食べることができた。また、24時間営業のコンビニエンスストアもあり、生活必需品は大抵揃えることができた。大学に隣接されている飲食店も多く、世界各国の料理を味わうこともできた。寮は1家4～5部屋あり、一室1名か一室2名で、キッチンとリビングは共用スペースとして皆が集える場所だった。また、学生には大学敷地内を行動範囲とするように指導した。寮のセキュリティに関しては、19時以降の外出と帰宅した際は記帳することや22時で寮が施錠されていたので、安全面も確保できていたといえる。

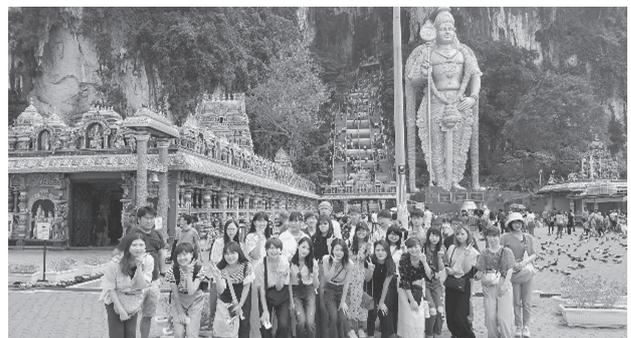
先述したように、週末はクアラルンプール市内を観光した。土曜日は錫製品の加工場であるロイヤルセラノゴールをはじめ、ヒンズー教の聖地であるバトゥ洞窟【写真3】、マレーシア国王の王宮、名産品チョコレートチョコレートキングダム、マレーシアの伝統工芸品ショップ、大型ショッピングセンターのパビリオン、クアラルンプールのランドマークであるペトロナスツインタワーの観光地を巡った。さらに日曜日にもオプションツアーとして基本的に全員参加を促し、世界遺産のブルーモスク、マレーシア独立戦争で命を失った兵士の功績を称えた国家記念碑、続いて、イギリスからの独立を記念する独立広場、パビリオン、チャイナタウンと寺院、マレーシアのお土産が手頃な値段で買えるセントラルマーケット、KLCCショッピングセンター、イオンショッピングモールといったクアラルンプールの観光名所を訪問した。マレーシアの歴史と文化を直接肌で感じる事ができた2日間であった。

マレーシアの短期海外留学報告は、中国学園大学国際教養学部ホームページ、ならびにFacebookで写真とと

写真2：KDU大学での授業風景



写真3：バトゥ洞窟



にも確認できる。ここでは、中国学園大学国際教養学部のFacebookから初日の授業と週末のアクティビティの様子を紹介する。

[マレーシアからの報告] By 佐々木・松浦

2019年9月10日

昨日(9月9日)関西国際空港から出国し、昨日の夕方、無事にクアラルンプール国際空港に到着しました。本日(10日)午前中は、Welcomeセレモニーとクラス分け試験とインタビューがありました。午後からはそれぞれのクラスに分かれ、文法・リスニング・スピーキングなどそれぞれのレベルに合った授業が行われました。滞在先のKDU大学の建物は近代的で設備も大変素晴らしく、スタッフの方もフレンドリーで学生たちも大変喜んでます。

2019年9月15日

週末2日間は、学生待望の観光に出掛けました。14日(土)はヒンズー教の聖地「バトゥ洞窟」、マレーシア国王の「王宮」、15日(日)はマレーシア最大のイスラム教のモスク、ブルーモスクこと「スルタン・サラディン・アブドゥル・アジズ・モスク」、チャイナタウンの寺院「關帝廟」などを訪問しマレーシアの歴史・文化など学ぶ機会となりました。

学生たちも大変満足したアツと言う間の充実した2日間でした。

5. アンケート結果と考察

短期海外留学を終えた直後に「マレーシア短期海外留学アンケート」を実施した。質問事項を紹介し考察を加えたい(表4参照)。

A)~P)の各数値は参加学生の回答の平均値である。アンケートは5件法を用いており、全質問の平均は4.19であった。参加学生は、項目に関して、「1全く同意できない、2同意できない、3どちらとも言えない、4同意できる、5非常に同意できる」から最も当てはまるものを選ぶように指示した。

A)事前研修の満足度は[4.01]、B)研修全体の満足度は[4.43]という結果であった。このことから多くの学生が実際の海外研修を通してKDU大学での授業や週末のク

表4 マレーシア短期海外留学アンケート結果

質問項目	平均値
A) 事前研修に満足した。	4.01
B) 今回の海外研修全体に満足した。	4.43
C) 毎日の授業に満足した。	4.00
D) グループでの授業に満足した。	4.26
E) 16日(月) ワークショップに満足した。	4.14
F) 14日(土) 学外研修(バトゥ洞窟・市内観光)に満足した。	4.74
G) 15日(日) 学外研修(ブルーモスク・国家記念碑など)に満足した。	4.70
H) 今回の研修を通して、スピーキングスキルが向上した。	3.61
I) 今回の研修を通して、リスニングスキルが向上した。	3.87
J) 今回の研修を通して、リーディングスキルが向上した。	3.57
K) 今回の研修を通して、ライティングスキルが向上した。	3.39
L) 今回の研修を通して、語彙力が向上した(単語の知識が増えた)。	3.87
M) 今回の研修を通して、今までより英語を勉強したいと思った。	4.65
N) 今回の研修を通して、今までより外国の文化に興味を持った。	4.78
O) 今回の研修に参加した経験は、将来の自分のためになると思う。	4.57
P) もし、このようなプログラムがあったら、また参加したい。	4.43

アラルンプールの市内観光に満足したことがうかがえる。

次に、授業の満足度については、C)毎日の授業は[4.00]、D)グループでの授業は[4.26]、E)ワークショップ[4.14]という結果であった。今回のマレーシア短期海外留学での授業形態は、基本的に10人以内の少人数クラスであり、グループで活動することはあってもマンツーマンの授業形態はなかった。その中でもとりわけ、クイズなどを取り入れたグループで楽しめるアクティブラーニング式の授業形態は評価が高かったといえる。

また、学外アクティビティーの満足度については、F)学外研修(バトゥ洞窟・市内観光)[4.74]、G)学外研修(ブルーモスク・国家記念碑など)[4.70]であった。ヒンドゥー教の聖地であるバトゥ洞窟や世界遺産かつイスラム教徒にとって神聖な場所であるブルーモスク、国家記念碑など観光名所を訪れることで、マレーシアの歴史や文化の重みを感じたことが高評価につながったと考えられる。

さらに、4技能や語彙力などの英語力に関しては、H)スピーキングスキルの向上[3.61]、I)リスニングスキルの向上[3.87]、J)リーディングスキルの向上[3.57]、K)ライティングスキルの向上[3.39]、そして、L)語彙力の向上[3.87]という結果であった。竹野ほか(2019)も指摘しているように、学生はリスニングスキルやスピーキングスキルといった音声面での向上を実感するようである。今回、リーディングスキルの平均値がスピーキングスキルの平均値とほぼ変わらないのは、授業で4技能をバランスよく習得させるための工夫が凝らされていたためと推測できる。

最後に、今後の意欲に関しては、M)今までより英語を勉強したい[4.65]、N)今までより外国の文化に興味を持った[4.78]、O)今回の経験は将来の自分のためになる[4.57]、P)このようなプログラムがあったらまた参加したい[4.43]という結果であった。マレーシアの歴史や文化を直接肌で感じる貴重な体験を通して英語学習のモチベーションが上がったと考えられる。まさにここに本プログラムの大きな意義があると感じている。

6. おわりに

今回の短期海外留学は過去4回とは留学先と実施時期を変更した。留学先はフィリピンからマレーシアへ、また時期も5月の連休明けから夏季休業期間中の9月に変更しての実施であった。春休みに入学前の学生にパスポート取得の指導や煩雑な業務をすることなく、入学後に落ち着いて海外に行く準備が始められたことや短期海外留学までに英語力を少しでも高めておく指導ができたのは9月実施の大きな利点である。また、夏休みに実施すれば、学生も帰国後に補講がないため、負担が少なくなったといえるだろう。今回、留学先と実施時期を変更

したが、帰国後の英語学習へと結びつける役割は十分果たせたように思われる。今後も課題を検討しながら、学生の将来へとつながる短期海外留学となるようサポートしていきたい。

引用文献

- 竹野純一郎・福田衣里・梅原嘉介・佐生武彦・小野山和男・大橋典晶ほか(2016)「フィリピンの英語教育(1)ーセブ島での語学短期留学を通してー」『中国学園大学紀要』第15号, 131-140.
- 竹野純一郎・藤代昇丈・伊藤(福田)衣里(2017)「フィリピンの英語教育(2)ーセブ島での語学短期留学を通してー」『中国学園大学紀要』第16号, 237-246.
- 竹野純一郎・佐生武彦・大橋典晶・松浦加寿子(2018)「フィリピンの英語教育(3)ーセブ島での語学短期留学を通してー」『中国学園大学紀要』第17号, 191-201.
- 竹野純一郎・大橋典晶・松浦加寿子・佐生武彦・佐々木公之・藤代昇丈ほか(2019)「フィリピンでの英語教育(4)ーマニラでの語学短期留学を通してー」『中国学園大学紀要』第18号, 159-166.
- 寺澤拓敬(2018)「日本の英語力は49位」という朝日新聞の報道について
<https://news.yahoo.co.jp/byline/terasawatakunori/20181119-00104683/>
 (2020年3月12日アクセス)
- Education First(2019)「EF EPI英語能力指数 2019」EF Education First Ltd.
<https://www.efjapan.co.jp/~/media/centralefcom/epi/downloads/full-reports/v9/ef-epi-2019-japanese.pdf> (2020年3月12日アクセス)
- Mercer-2019 Cost of Living Ranking
<https://mobilityexchange.mercer.com/Insights/cost-of-living-rankings>
 (2020年3月12日アクセス)
- Numbeo-Quality of Life
<https://www.numbeo.com/quality-of-life/> (2020年3月12日アクセス)

Terasawa, T (2012). The discourse of “Japanese incompetence in English” based on “Imagined Communities” : A sociometric examination of Asia Europe Survey. *Journal of English as an International Language*, 7(1), 67-91.

The Economist Intelligence Unit (2019). *Safe Cities Index 2019*.

https://safecities.economist.com/wp-content/uploads/2019/08/JPN_EC0063-NEC-Safe-Cities-2019_FINAL_270x210_SCREEN_REV-3-Sep.pdf

(2020年3月12日アクセス)

(付録1)

2019 中国学園大学クアラルンプール語学研修 11 日間 (MH)

日次	月日曜	発着滞在地	時間	交通機関	摘 要	食事
1	9/8 (日)	岡山駅西口集合 岡山駅西口発 関西国際空港着 関西国際空港発 ホテル着	11:50 12:20 15:55 16:00 16:30	リムジンバス シャトルバス	高速道路経由 (所要時間 約3時間35分) 専用車にてホテルへ 前泊【KARAKSA Spring Hotel泊】(予定)	— —
2	9/9 (月)	ホテル発 関西国際空港発 クアラルンプール空港着	07:30 09:55 15:45 19:00	シャトルバス MH053 専用車	関空へ 出国手続き後、空路クアラルンプールへ (所要時間 06:50) 入国手続き後、専用車にて日本語ガイドと共に 夕食後、KDU 大学へ 【KDU 大学寮内泊】	— 機内 夕食
3	9/10 (火)	クアラルンプール	午前 午後	徒 歩	大学にて朝食 大学にてオリエンテーション (クラス分けテスト) 授業参加 【KDU 大学寮内泊】	朝食 — 夕食
4 ? 6	9/11 (水) ? 9/13 (金)	クアラルンプール	終日	徒 歩	大学にて朝食 授業参加 【KDU 大学寮内泊】	朝食 — 夕食
7	9/14 (土)	クアラルンプール	終日	専 用 車	クアラルンプール市内研修 王宮、国家記念碑、独立広場、国立モスク ロイヤルセラランゴール工場、パツ洞窟等 【KDU 大学寮内泊】	朝食 昼食 夕食
8	9/15 (日)	クアラルンプール	終日	—	自由研修もしくはOPツアー 【KDU 大学寮内泊】	— — —
9	9/16 (月)	クアラルンプール	終日	徒 歩	大学にて朝食 ※急遽、この日は祝日になりましたが、授業は通常通り行 います。 授業参加 【KDU 大学寮内泊】	— — —
10	9/17 (火)	クアラルンプール クアラルンプール空港発	午前 夕方 22:10	徒 歩 専 用 車 MH052	大学にて朝食 授業参加 寮退出。日本語ガイドと共に夕食後、空港へ 出国手続き後、空路関西国際空港へ (所要時間 06:30) 【機中泊】	朝食 — 夕食
11	9/18 (水)	関西国際空港着 岡山駅着	05:40 08:45 12:25	リムジンバス	入国手続き後、リムジンバスにて岡山へ ～お疲れ様でした～	機内

【利用航空会社】
【利用予定宿舎】
【留意点】

MH: マレーシア航空
KDU 大学寮内

※発着時刻等は変更になることがあります

- 1: 寮内のキッチンにはIH器具のみでお湯を沸かす程度になります。
- 2: 寮は1家あたり4部屋あり、最大計8名様での利用になります。
- 3: 男女は別家かつ他国の学生が同家に入る場合もございます。
- 4: 食事は大学内のカフェテリアでの提供となります。
- 5: 食事条件は 朝食6回、昼食1回、夕食7回の提供になります。

